

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2010-115
研究課題名	日本人の大腸癌発生・進展への女性ホルモンの関与
研究期間	西暦 2010年 6月（倫理委員会承認後）～ 2015年 5月
対象材料	<input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 大腸） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 下垂体、甲状腺・副甲状腺、副腎） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ）
上記材料の採取期間	西暦 1994～2008年
意義、目的	疫学的・実験的研究では、エストロゲンは大腸癌に抑制的に作用すると結論づける報告がほとんどだが、人体組織を用いた臨床病理学的研究は非常に限られている。また、日本人と欧米人では、大腸癌とエストロゲンの関係において、種々の点で不一致が認められる。人種・生活習慣の差によるものか、未曾有の社会の高齢化を反映したものかは不明であるが、日本独自の研究が必要と考えられる。本研究では、日本人の人体材料を用い、estrogen receptor- $\beta$ (ER- $\beta$ ) および estrogen 代謝酵素群の発現、各種エストロゲン濃度等、エストロゲンに関連した多方面からの解析を行うことにより、エストロゲンと大腸癌の関係を明らかにし、エストロゲンを適切に制御することによる大腸癌予防・治療の可能性を探る。大腸癌は高齢者に多い代表的な癌であり、老年病という側面もあるため、高齢者大腸癌も研究対象に加え、エストロゲンと老化発癌という観点からも解析を加える。
方法	過去に東北大学病院または関連病院で摘出され、東北大学病院または病理診断学教室に保管されている大腸癌手術検体を対象とする。10%ホルマリン固定パラフィン標本あるいは凍結標本を用いる。ER- $\beta$ 、エストロゲン代謝酵素群、ミスマッチ修復遺伝子産物等の発現は、10%ホルマリン固定パラフィン標本について、免疫組織化学的に検討する。癌部・非癌部での各種性ステロイドホルモン濃度の比較、老化発癌と密接に関係するミスマッチ修復遺伝子 CpG アイランドメチル化の影響等の検討は、凍結標本について行う。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野 赤平 純一 022-717-8050